

広島コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 6 年 10 月 11 日（金） 午前 9 時 00 分～10 時 15 分

場 所：広島コミュニティセンター

参加者：21 名

担当者：市長、離島振興担当職員【長楽、小山（地域づくり課）】、塩田（秘書課）

1. あいさつ

（所長）

ただいまから令和 6 年度「みんなでまちづくり。市長と語る会」を開催させていただく。本日はお忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。本日の会はお手元の次第に沿って進めさせていただく。1 時間程度を予定しているので、どうぞよろしくお願いする。広島校区連合自治会並びにふれあいのまち広島をつくる会、横瀬会長よりご挨拶申し上げます。

（会長）

今年の夏は暑く、猛暑日が 9 月末まで続き、10 月に入ると急に秋らしくなってきた。この 1 週間くらいは 1 日の気温差が 10℃以上あり、皆さん体調管理をお願いしたいと思う。

今日は市長と語る会ということで、市の皆さんは大変お忙しい中、市長をはじめ島に来ていただき感謝申し上げます。皆さんも今の時期、人が少ないなりにもお祭りなどいろいろな行事があつてお忙しい中を、大勢の方が出席していただきありがたい。

時間は 1 時間ぐらい、広島、手島、小手島の状況を市長に聞いてもらう予定であつたが、小手島がまとまっていないようであるので、広島と手島の内容をお願いしたいと思う。時間が許される限り、皆さん方からも島で生活する中でのいろいろな問題や意見を出していただきたい。

（所長）

続いて、丸亀市長よりご挨拶をいただく。

（市長）

日頃から丸亀市政に対し、広島の皆様が大変理解をしていただいて、またご協力とご支援をたくさんいただいていることに、まずは御礼を申し上げます。私は島が好きである。景色がきれいで心が落ち着く。先ほどトイレを作っている場所、トリドールの心の本店の現場も見させていただいた。

今日は皆さんに忌憚ないご意見を遠慮なく、ざっくばらんに言っていただけたらありがたい。

（所長）

会に入る前に本日の出席者のご紹介をさせていただく。（出席者紹介）

本日の進行は私が務めさせていただく。よろしくお願いする。それでは今回のテーマ「まちづくりは人づくり」に関連した今年度の重点プロジェクトを市長から説明いただく。

（市長）

今年度の重点項目として「まちづくりは人づくり」をキーワードとして挙げて予算づけをした

ことについて説明させていただく。

私は市長をさせていただいて4年目になるが、最初からまちづくりは人だと思っている。

それを具体的に予算配分できたのが4年目ということである。まず1つ目は協働推進部という新しい部を作った。時代はどんどん変わっており、驚いたことに企業が本市の課題を解決してくれる時代になっている。

「四国サポーターズクラブ」という、JRや郵便局、四国電力などの四国の企業100社ぐらいが、人口が減少する四国に対してまちを3年ずつ応援しようという取り組みがあり、その最初に丸亀市を選んでくれ、市のにぎわいづくりに協力をしてくれている。

子供達にいろんな会社の体験をしてもらいイベントを3年間してきて、親子連れがたくさん集まっている。今年の10月に最後のイベントを行うが、いろいろな面で企業がお金も出してくれ、人を集めてくれる。こんな時代が来たのだと思った。

その他、丸亀の企業も今までは想像できないような協力をしてくれている。例えば四国化成は、ハーフマラソンの大会で、世界記録や日本記録が出たら賞金を出してくれる。ハーフマラソンの盛り上がりは、協賛企業の助けがあるからこそである。

今月5、6日に七尾市合併20周年の式典に出席したが、倒れた家もまだまだ見られた。七尾市は和倉温泉などの温泉街があり、そこの護岸が最大1m20cm下がっている。和倉温泉の加賀屋のメインとなる旅館は、護岸が個人の私有地である。私有地部分については国、県が修復を行わないため、それが一番の問題であると現場で説明を聞いた。七尾市長は、どうにか私有地の護岸も一緒に修復してほしいとお願いしているが、法律で決まっているので簡単には出来ないという話のせめぎ合いである。

能登の大災害で顕著だったのは、地域住民の協力が本当に大事だと感じる場面がたくさんあったこと。七尾市は上水道が長く使えず、下水道も中がどうなっているかほとんどわかっていない。今、丸亀市からも土木技師が1人行って、1年間お手伝いをしている。見たところ復旧にはまだまだ時間がかかる。仮設住宅に住んでいる人達のご近所の方々と助け合い、これは東日本大震災でも阪神淡路大震災でもそうであったが、地域住民の地域力が大切だということを私たち行政もつくづく感じている。

七尾市には丸亀市から1月5日から7月1日の約半年、毎日3人の職員を派遣した。七尾市長と1月2日に電話で直接話した時に「何でも言ってください、丸亀市は本当に支援しますから」と伝えたところ、「物はいいですね、人が欲しい」とはっきり言われたので、職員を派遣した。6ヶ月間、最後の最後まで職員から手が挙がって、被災地に進んで行ってくれたことが私はものすごく嬉しかった。こういった部分もやはり人であることから人づくりを大事にしていきたい。今後も、復旧復興のお手伝いが少しでもできるようにと思っている。

予算で言うと丸亀市は「まちづくりは人づくり」ということで協働推進部を作った。

それと自治会1件当たり300円の補助金を今まで出していたが、これを今年4月から倍の600円にした。たった600円であるが全体では数千万になる。私と丸亀市職員と市民の皆さんと一緒に協働でまちづくりをしていこうと想いで補助金を倍にした。

また、自治会長の手当を、これも少しではあるが 1.3 倍から 1.5 倍ぐらいに上げた。自治会長はかなりポケットマネーを使っているのも現実であるので、これを行った。

それともう 1 つ、人づくりと言えば教育関係。4 月から「人づくり石垣プロジェクト」に取り組んでいる。石垣は、今年の 8 月 20 日から 1 個目の石を積み重ねている。400 年前に積んだように 1 つずつ丁寧に積み重ねることになぞらえて、子供たち 1 人ずつ丁寧に人づくりをしている。

コロナでたくさん学校が休みになった。その中で不登校児童が全国的に倍以上になった。丸亀も約 2 倍になっている。そこを何とか早く改善しようということで、丸亀市費を使って、小中学校の講師の先生、支援員、補助員、スクールソーシャルワーカー、相談業務ができる O B の校長先生、全部で 51 名を新たに雇った。担任副担任の正規の先生方が、子供たちと向かい合って話し合う機会をたくさん作ることが目的である。まずは 5 年間行う。

去年教育長にこの話をしたところ、予算をつけてくれても担ってくれる人がいないことが一番の問題と言われた。教育長自らが一人一人にお願いしてその職についてもらうように話をしたら 51 名集まった。もちろん教育長だけではなく、教育委員会にいるベテランの先生方が中心になって O B の方々や、そして補助員支援員は教員の資格がなくても大丈夫なので過去に経験のある方に、ピンポイントでお願いした。1 億 3000 万円ほどの予算をつけている。

ハード面では、学校関係の建て替えを行っている。今年は 14 校、何らかの予算つけている。城東小学校、城南小学校、城坤小学校、栗熊小学校、飯山南小学校、飯山北小学校、建て替えまたは大改修が軒並みあるので、今年の建築予算は 200 億を超えている。これも子供たちに対する投資と考えているので、躊躇することなく行っている。

最後に、今年の予算であるが 700 億円を超えている。市長はお金使いすぎと市民から結構言われるが、年に 1 回議会に説明する際、実質赤字比率や将来負担比率を向こう 10 年間出すが、私の 3 年間は改善している。これだけお金を使って改善をしていることは、皆さんのご理解をいただきたい。このような形で人づくりを 1 つのキーワードとして取り組んでいる。

2. 意見交換

(所長)

続いて市への質問事項について。あらかじめコミュニティから市へ質問事項を提出しており、2 点質問をさせていただいている。会長から質問の内容について説明を行った上で、市長から質問に対するご回答いただき、回答内容や関連事項について皆様からご意見ご質問等をいただければと思う。1 問ずつそれぞれ区切らせてもらう。質問 1 点目は、広島航路の時刻表改善について。

(会長)

広島の船便のダイヤについて、過去何回も離島振興室を通じて変更をお願いしているが、まだ現実には変更になっていない。そのことで 1 つ今日もお願いしたい。

まず市の方で移住の情報発信をしてもらっているが、つい最近島へ移住したいという人の気持ちも少し聞いた。その方はこの近辺の島にも、移住するための家探しを行っているそうである。どうして広島に移住したいのか聞くと、島に降りたら何となく空気が良い。住んでいる人の気心が温かいので、ここに決めようと思うという話を聞いた。現在移住されている方も、地域づくり・人作りという話があったが、そういう島の環境の中へ自分が移住して、そういう生活環境を守る、それで私も来たという方も大勢いる。

若い人が島に住んだら、今はネットの関係でいろいろなことで仕事ができるというが、やはり船便は大事であろうと思う。島の人から、若い人が移住したら、通勤に丸亀からの最終便が 17 時半は早すぎる、無理という話も聞いた。我々島に住んでいると丸亀発 17 時半はいいと思うが、通勤する人にとっては早すぎる。

今年の 2 月に大阪の方から、祖父が島出身なので島に住みたいという方がいたが、川西北の方に移住した。30 歳ぐらいの夫婦で、保育所に通う子供も 2 人連れていた。「学校は、来年 4 月から再開してくれるので心配いらない、島に来たらどうか」と話したら、奥さんの方は、「若い人は通勤しなければいけないので、丸亀発 17 時半は無理です」とはっきり言われた。「島で生活したいという気持ちはあったが無理です」と。街の人なので、「島のように過疎で生活に不便なところはどうか」と聞くと、「いや私はそんなところで生活してみたい、子育てもしてみたい」という奥さんの気持ちであった。

これはやはり丸亀 17 時半は何とかなして延ばしてもらわないといけない。延ばす際に、船員の現在の拘束時間の中で収まるようにするとしたら、18 時ぐらいになるのではないかなと思う。せめてそこまで延ばしてもらったら、今現在 4～5 人通勤している方も助かるのではないかな。

現在の通勤者は船便を考えて、自分の勤務時間を半日や 5 時間と決めたところに行っている。17 時半では 8 時間の仕事はできない。市役所であれば 17 時半にぎりぎり間に合うと思うが、ぜひ現在の時間の中で何とか延ばしてもらいたい。将来的には移住者を受け入れるためには 18 時ではいけないと思う。せっかく市が移住者を受け入れる情報発信を一生懸命やってくれているので、移住者のことを考えたら、ぜひ船便の関係も最終便は延ばさなければいけない。

この間も丸亀のフェリー待合所の中で、備讃の社長と会った。「離島航路を改善して欲しいと出しているがどうなったか」と聞いた。「今は何も考えていない」と。今年の 6 月 25 日の会の中でも、去年も出した。ぜひ財政を抱えている市長の方からなんとかしようと言ってくれたら、備讃も受けるのではないかなという気がする。ぜひお願いをしたいと思う。

(市長)

この現状は以前から私も知っており、17 時半は早すぎると思う。備讃と国、県に対して今までも協議は進めているが、まず 18 時近く、20 分でも延ばしてもらおう。20 分違ったらかなり違う。まずは強く申し入れをする。実現するかどうかは分からないが、これは私も一緒になってするので、室長もお願いする。

それと、便を増やして 18 時以降となれば、これは国、県からの補助金の問題などがかかってくるので、ここは丁寧に国、県へ要望をしつこく行っていく。早急に進めていくよう取り組む。

(所長)

ただいまの回答について何か。

(コミュニティ1)

来年から学校が再開する。高校生になれば部活もあるので、それを踏まえて将来のことを考えて欲しい。

シフトまで変えて仕事をしている島民の感覚と、まちの人との感覚の違い。欠航も多く、なぜ今日は会社に来ない？なぜ先に帰る？みたいに、分かっている感覚的なものがすごくあって、あまりにも欠航便が多いのでその辺を考えて欲しい。

現在 4 月から 9 月まで、金曜日は手島小手島への遅い便がある。すごく助かっていると思うが、できればもう少し期間を延ばしてほしい。乗っている方の顔を見ると手島小手島の人も、子供連れも乗っているので、丸亀発 17 時 30 分を 20 分延ばして 17 時 50 分はすぐにでも決めていただきたいし、4 月～9 月の手島小手島便の期間も出来ればもう少し延ばしてほしい。

(市長)

備讃からすれば、お金を多くくれればという話なのか。

(室長)

正直なところお金の面ではなく、やはり企業の社員数の問題だったりする。船員確保がどこの会社も非常に課題になっている中で、備讃フェリーもそこは一緒である。やはり働き方改革など言われているなか、一人一人が働ける時間というのが決まっているので、その時間を考慮しながら何時間働かせられるかをシフトで組んだ場合に、今の最終便の時間を遅らせるとなると、その分拘束時間が増えるので、人を雇い入れてやっと成立する。旅客船でも最低 2 名は確保しなければいけないとか、フェリーには 4 人は必ず必要だとか、そういう“人”の問題もあるので、直ぐ簡単にとはいかない。プラスお金もかかってくるので、国・県・市の補助も増額が必要。両面からの問題がある。今、交渉はしている。

(市長)

交渉はしているが、直ぐにというのは難しいということか。

(室長)

難しいという回答をいただいているので、ここは根気よく必要性を挙げていくしかない。

今、広島江浦港から最終便が 18 時 10 分を出ているので、丸亀港を 17 時半に出ているところを、その 18 時 10 分の最終便を変更しない範囲で、20 分ぐらい遅らせることは可能ではないかなという答えをいただいている。まずはそこから、できるところの実現を目指していきたい。

(コミュニティ1)

20 分かかるので 17 時半に出ると 17 時 50 分にこちらに来る。18 時 10 分発に間に合わすという 20 分しかないのでは、その時間だけでやりくりするのはほとんど無理ではないか。

(室長)

通ってらっしゃる方からすると、17 時半に出るのと 17 時 45 分に丸亀港を出るのでは、この 15 分の差が大きいと思うので、45 分にでも出発ができるように今実現に向けている。

(コミュニティ2)

頑張って交渉してもらうのであれば 10 分、15 分の話ではなく、最低でも 1 時間ぐらいの時間を遅らすような話にしてもらわなければ、この前 10 分延ばしたからもういいではないかと言われるような気がする。そうであればいきなり 1 時間ぐらいからいかなければ。仕事をしている人が、30 分～1 時間残業したら、それだけ帰ってくる時間も遅れるが、船の時間が決まっているので早く帰してもらおうということにもならない。やはり見直しするのであれば 1 時間単位でやってもらわなければいけない。

船員が集まらないということであるが、聞くところによると、船員も備讃で雇っていた人を、多度津のフェリーの方へ回したというような話もあった。募集したら何人かいるのではないか。船員になりたい人も、水産高校を卒業して毎年出てくるので、そういうところからやはり会社の方でも、人員を見つけてもらって、予算がかかるというのであれば、他の船を削ってでも後ろに持っていくぐらいのつもりでなければ、出来ないのではないかと思う。

(室長)

繰り返しになるが、船の時刻表を変更するにあたっては、今 2 つの考えを並行して取り組みを進めている。まず 1 つ目の 15 分でも遅らせていくことについては、今の人員体制、それから補助金の関係にも全然影響なく、その範囲内でできるという風に理解しているので、あとは時刻表を変えるなどの事務的な手続きを踏んでいただく形になる。そこについては実現できると思うので積極的に交渉している。

もう 1 つの 17 時半より後にもうひと便増やすことについては、15 分ではなく 30 分でも 40 分でもと言われると、18 時 10 分に江の浦を出発する便よりも後になってしまう。つまり人件費が今の状況よりも増えてしまうことになるので、やはり別物として捉えている。増便というような考え方で、増やしていただけませんかという 2 本柱で今お願いをしているところである。

2 つ目については、人員確保も必要になってくるので、簡単な話ではないので、事業者と国、県、市、みんなでどうやったらできるだろうかというのを実現に向けて進めているというところ。

人を雇い入れることは、先ほども学校の方への働きかけ等もおっしゃっていただいたが、事業者の方も県内外問わず、海洋学校の方にも出向かれて人を探している現状であるので、丸亀市としても協力できるところは積極的に協力していきたい。今しばらくご理解の方お願いしたい。

(コミュニティ2)

17 時半を 17 時 45 分にすることは、どこにも迷惑かけずにすぐに出来そうな話に聞こえたが、それでは広島だけの話になってしまって、手島小手島の人とは全然関係ない話。17 時半の便は江の浦までしか来なくて、丸亀港に帰るだけ。

(コミュニティ3)

手島小手島の最終便は 3 時、そこだけは覚えてください。また、運賃の一律化ということをお大分前からお話をしているが、どうして広島、青木、手島、小手島とだんだん料金が上がるのか。おかしいと思わないか。

(コミュニティ4)

島民はせめて一緒に。

(コミュニティ3)

三島連合という名前では、一緒にないとおかしいと思う。

(室長)

運賃の件については国にも確認したが、出発の起点である丸亀港からの距離。

(コミュニティ3)

距離は直線距離にしてほしい。島に寄って、寄ってとなれば距離はすごくかかる。

(室長)

丸亀港からの距離からしても、江の浦と手島の距離は違う。どうしてもその金額は差異が出る。

(コミュニティ3)

フェリー会社が一律化出来ないのは、国の規定もあるだろうが、手島小手島の人口は多くないので、その部分だけ丸亀市が補助するという形で、手続きはややこしくなるかもしれないが、そういう方法は取れないか。バス運賃が一律と考えると、結局は補助金という話になるかもしれないが、手島小手島の方は高い運賃を払っているの、一律でもおかしいことはない。

(コミュニティ5)

先ほどから業者の話は出てくるが、どこに問題点があるかは誰かまとめているのか。そうでないと、条件をどこへ持って行っても十分なアピールとはならない。その中で利用する人、運航する人の歩み寄りがないと絶対に解決できない。アピールする部分として、やはり住民の声も伝えてもらわないといけない。

実際に手島小手島の時間が遅くなるなど、ある程度仕方がないこともある。でも仕方がないから我慢するという話ではなく、どこかで解決する方法をもっと前向きに考えてもらわないと、悪くなる方へはどんどん進む。良くなる方向には何故かなかなか話が進まない。

そこに人が住んで生活していることをまず1番に考えたら、そこに住んでいる人が言えない不満がどんどん溜まっていくと、この議題に挙がったような「まちづくりは人づくり」のまちづくりどころではない。これは非常に難しい問題だと思うが、必要十分というわけにはいかないの、その辺りをもっとピンポイントに、できるところから解決していく方法もとれるのではないかな。

(コミュニティ6)

今いろんな意見が出て、手島小手島は今まで当たり前という考えでやってきたが、「まちづくりは人づくり」のお話をしている中で、広島から料金や時間の意見が出ていることは大切なことだと聞いていて思った。一律料金、それ以上高い部分は企業努力や市の負担など、いろいろな考えがあると思う。備讃フェリーに乗れば、手島小手島の人でも広島の人と同一料金。そういう新しい考えで、みんなが解決方法を出す。広島も手島小手島も住みよいまち、住んでいる人が協力するという話が出ているが、島の場合は特に大事なことだと思う。中学を卒業したら高校へ行くには、丸亀にアパートを借りる。欠航が多いので、多分通学するのは無理だと思う。

話は変わるが、フェリーの2割負担は、年金生活になったら本当にありがたい。しかしうちの場合は、子供たちが高校、大学に行くときに、丸亀にアパートを借りるのに5、6万必要だったので家を建て、住民票を丸亀市内へ移した。個人的な話ではあるが、私は愛育会やPTA、体協などいろんな役をして、広島が元気になるように動いてきた。この間も離島振興室をお願いに行ったが、地元で広島を元気にするためにずっとやってきて、住民票が向こうにあっても、広島のために、みんなが元気になるように動いてきた。自治会長とセンター長の証明があったら2割負担とならないか？

3月から回数券を10回分買っている。それだけ市内（本土）へ行っている。そういう方もおいでと思うが、高校に行き出したら拠点が2つになって、親が住民票を移さなくてはいけないこともある。うちの場合はそれでずっときている。

今後も広島にいるけれど、拠点が2つある。広島の人々と仲良くイベントなどたくさん参加しているけれど、住民票がないばかりに当てはまらない。2割負担は島民にとってはありがたい制度であるが、住民票がないからこれだけ回数券を使っても何もならない。広島を元気にするために、みんな仲良くするために、いろいろ考えて動いている人もいる。これは私の話であるが、また違うところにもいると思うので考えていただきたい。

（コミュニティ2）

考え方として難しいと思うが負担の分担、どうして手島小手島の分まで負担しなくてはいけないのかという考えはあるかもしれないが、やはりこの三島で生活している間はそういう負担分もあって然るべき。私は自分のパソコンで資料を作っている。このくらいであれば出来るということを負担している。それをいちいち皆さんにこうしていると言うわけにはいかない。

今日のこの会に来るのも丸亀市の駐車場へ車を入れて、船に乗って来た。その分は自分のことである。そういう負担を負っているという部分も、皆さん全部を分かっているわけではないと思うが、でもその辺ができるだけ平等になる、という考え方をもっていかなければ仲良く暮らせない。

人づくりというのはお互いのメンタルの部分の話ができる場所。前から思っているが、話の内容が割と一方的である。前にあった質問がどうなったか聞かない。その辺もやはりコミュニケーションが取れていない。人の付き合いでメンタルな部分をもっと重視していかなければいけない。田舎ではその地域に合った、となっているが、私が今住んでいる丸亀の自治会は丁寧。役員会をしても明細をきちんと回覧版で回してくれたり。できることはしなければいけない。

（所長）

やはり島民の皆さんの生活が一番大事。皆さんの生活が良くなると移住者が増えないということもあると思う。船の航路についてはいろいろと課題があると思うので、行政と運航事業者、島民の皆様が一堂に会して協議する場を一度設けてもいいと思う。またご理解ご協力いただきたい。

（コミュニティ7）

運賃については三島の生活のライフラインなので、本来島民は全部無料ならありがたい。去年はひと月無料であった。日数にすると30日。今年度は毎月20日で、日数にすると12日。ライ

フラインと考えると、市長はお金を作るのが上手なので動いていただけたらありがたい。

(市長)

離島振興協議会の県の会長になった。本当に丸亀にとって島は大事な場所であって、市長になってから島に予算をかなりかけているのは事実である。

今日は私が知らなかったような話を聞いた。国、県の制度や法律などで運賃が無理な場合は、丸亀市で補填するかどうかということだと思う。その辺も含めてしっかりと勉強して、また話も聞きながらやっていこうと思っている。まずは17時半が少しでも延びるように、二本立てで備讃フェリーと国、県へ要望はしつこくあげていくようにする。

(コミュニティ3)

市長は手島小手島に来たことはあるか。

(市長)

すみません、行ったことがない。

(コミュニティ3)

ぜひ来てください。

(市長)

ものすごく行きたい。本当に申し訳ない。

(所長)

それでは質問事項の2について。

(会長)

手島の自然教育センターは指定管理を受けて運営をしているが、西浦の方に小学生が来ていた頃に使用していたいろいろな道具が入っている倉庫がある。その倉庫は傷んでおり、もう使うこともないので撤去していただきたい。

(市長)

本当にもう必要でないのであれば市が撤去すべきだと思うので、この後すぐ指示する。予算が付けばすぐに。

(コミュニティ3)

お金は別として、危ないので早めに撤去してほしいと要望した。

(市長)

そのような方向で。撤去しても問題はないのか。

(所長)

手島の地元の方が利用しないのであれば、センターの方で現場を確認しているので、あとは建築担当課に確認をしてもらって、予算の時期に入るので検討してまいりたい。

(所長)

質問事項については以上となる。その他に皆様の方からご意見ご質問がありましたら伺う。

(コミュニティ3)

イノシシについて、捕獲強化月間として広島の方も300頭400頭捕っている。今年は手島の

方も 40 頭くらい捕っている。しかし、集中的に捕っても結局は増えてくる。最近も子供がたくさん捕れて、かなり増えてきている。

根本的に島全体を根絶やしにする方法はないか。昨日も 80 kg～90 kg のイノシシを捕ったが、私は死ぬまでこんなことをやっているのかと思った。若い人はまだ 30 年 40 年もやらなくてはいけないと思うと、本当に考えてほしい。

(市長)

本当におっしゃる通り。昨年度の集中捕獲に予算をつけて行った。たくさん捕ったがまた子供ができていうことで、本当にどうしたら根絶やしにできるのか。日本全体が取り組まなければいけないが、今のところその解決策は出てきてない。

(コミュニティ3)

何か方法があれば最近では島で飽和状態になってきて、逆に大陸の方へ泳いでいくらしい。

(コミュニティ4)

去年たくさん捕る前は、飽和状態になったらどうなるのかと思っていた。

(市長)

イノシシについてはご足労をかけるが、引き続きよろしくお願い申し上げます。

(コミュニティ8)

移動販売について、今月いっぱい終わると聞いた。今後どうなるのか。我々は丸亀に買い物に行けるが、行けないお年寄りもたくさんいるので、早急に対応しないと困ると思う。次が決まっていないということで、NPO でできることがあれば何かお手伝いはしたいというような方向で話がいていると思う。

(室長)

移動販売については大変ご心配をおかけしていることと思う。今入っている事業者は社協からの航路補助を受けて、福祉の視点で移動販売ということで本島と広島にそれぞれ週 1 回ずつ入ってくださっている。補助金は社会福祉協議会から出ている。

(コミュニティ9)

車の中の内容や職員など、検査などをはされるのか。

(室長)

そこは事業者がされている。市や社協に届いている声は、事業者にお答えしていただくように反映するようにお伝えはしている。

(コミュニティ9)

指導はされているということか。

(室長)

そういう声が届いているので改善の必要があるということではないか、というお話をさせていただいている。

そういう中で、今引き受けられている事業者の方から、事情もあつて続けていくことが難しいようなので 10 月末をもって終了しますということを、社会福祉協議会の方から市の離島振興室

にもお話があった。社協とも福祉の視点から皆さんが非常にお困りになるであろうということ
はわかっている、引き続きどこかにご協力いただけないかということで、社会福祉協議会と
離島振興室含めて、事業者とこれから相談していこうと、幾つか協議に入っている。事業者の方
で、島に移動販売という形で入ってもいいという方がいらっしゃれば、社会福祉協議会の航路補
助を使って入っていただけたらと思っている。

先ほど話に出たが、例えば香川コープとかが配達サービスという形で買い物サービスもされ
ているので、そういう利用がもう少し簡易にできないか、例えば先ほど会長が言われた、NPO
からも島のためにできることがないかを考えていただいているようで、提案も急ぎいただい
たりもしている。市も協議の中に入れていただいて、何か島の方の買い物支援に繋がるような仕
組みができないか、一緒になって考えていきたいと思っている。

11 月からしばらく来ないということが起きてしまう可能性あるが、そういう期間がなるべく
短くなるように、広島だけではなく手島小手島の方の買い物支援も広く全体を見て取り組めな
いか、そういう制度設計を一緒に考えていきたくと思っている。そのあたりも少しお時間いただ
けますようお願いする。

(コミュニティ4)

早急をお願いする。

(コミュニティ10)

先日、迷走台風があったが、2 日は持ち堪えられる。しかし、3 日間船を止められると冷蔵庫
が空になって、皆さんにも聞くとほとんど同じ。

船の話に戻るが、3 日間船が来なければ、島では食べるものがない人も結構多いのが現状。

(コミュニティ2)

島にずっと住んでいる人は1 週間に1 回くらいしか買い物に行けないので、1 週間分は持つ
ている。台風が来ると船が止まるのはわかっている、止まる前に1 週間分買ってきている。3
日ぐらいではジタバタしない。この人は行ったり来たりなので、物を置いていない。

(コミュニティ11)

お年寄りには台風が来るから前の日に行こうということができない。その人たちは米があつ
ても副菜がない状態になる。

(コミュニティ2)

何日分ストックがあるがわからないが、緊急の場合は備蓄食料がある。

(コミュニティ9)

防災について、台風や津波に対して避難所はセンターになっているが、ここは海拔何mか。

(所長)

1 mから 2mだと思いが確認する (※後の調べでは実際は 2~3m)

(コミュニティ9)

海水面の平均はどこを中心としているのか。

(市長)

その時の干潮満潮で違ってくる。

(所長)

今、防災計画を作成している。その状況に応じた避難経路、避難場所を含めた計画を作っている。そういったものを参考にして身の安全を守っていただきたい。

(コミュニティ11)

丸亀市の方で電柱などに海拔表示をしている。また近いうちに広島町で防災訓練をやってみてはどうかと思っている。

(市長)

今日はたくさんのご意見を聞かせていただいた。もちろん出来ることと出来ないことはあるが、いずれにしても丸亀の島々が少しでも良くなるようにと思っているので、今日言われたことに職員と一緒に取り組んでいく。また引き続き、いろいろとご意見をお聞かせいただければと思う。

最後に1つだけ、私は7月には12日間、東京の省庁へ陳情に行ってきた。

10月の後半から11月にかけて、13日間陳情に行く予定であるが、私は市長になってからずっと続けている。それでうまく本当にお金になっているかどうかというと、少しお金にはなっている。引き続きそれを頑張って、来年の予算取りをしっかりとしようと思っている。

これからも丸亀の元気なまちづくりに、皆様方のご理解ご協力とご支援をいただきながら、しっかり取り組んでいこうと思うので、どうぞよろしくお願い申しあげます。本日は本当にありがとうございました。

(所長)

以上をもちまして、市長と語る会を閉会させていただく。皆さん本日はありがとうございました。